

第2回多治見市女性活躍会議 会議要旨（案）

日時 平成27年8月10日（月）午後3時30分～午後5時30分

場所 多治見市役所本庁舎 5階全員協議会室

出席委員 加藤智子会長、谷口幸子副会長、伊藤静香委員、伊藤千里委員、
加藤裕子委員、佐藤秀樹委員、高木正典委員、土屋昭弘委員、
水野隆夫委員
欠席委員 川上幸代委員、木下貴子委員、高口さより委員、鈴木亜紀子委員
事務局 水野企画部長、桜井企画防災課長、山田課長代理、伊藤課長代理、
加藤主事
関係部局 くらし人権課、子ども支援課、教育総務課、産業観光課、保健センター

ー以下会議録ー

1 加藤会長挨拶

今回は「輝く女性」として、実際に社会で仕事をしている女性の経験談や、今現在どのようなことを望んでいるのか、これから先どうしていきたくかを話していただきたい。

2 第1回会議要旨（案）の確認

8月14日（金）までに修正の申し出がなければ、（案）を取りホームページ等へ掲載する。

3 ライフステージと女性を取り巻く環境への期待

＜事務局＞

第1回会議でいただいた意見を、ライフステージを縦軸に、女性を取り巻く社会的環境を横軸の表にまとめた。第2回はこれをベースにご意見をいただきたい。

- （1）家庭への期待
- （2）職場への期待
- （3）地域支援への期待
- （4）行政への期待

【意見交換】

（1）家庭への期待

- ・ 家庭のことは家族で話し合いをするべき。
- ・ 相手の人格、人生をお互いに尊重できれば、家族への関わり方を変えることができる。
- ・ 父親は、休日は家庭で過ごしてほしい。
- ・ 男性として、親として、無意識のジェンダーバイアスがある。

① 家事

- ・ 女性は家に帰れば家の仕事をしなければならない。男性ももっと家事をするべき。
- ・ 親との同居は負担も多いが、夫婦共働きだとありがたい。
- ・ 妻が夜遅くにしか帰れないのは嫌だ。

② 子育て

- ・ 楽しみながら子育てできる。
- ・ 子育ては男女でする意識を持つべき。
- ・ 父親が子育てに関わると子どもに嫌われない。
- ・ お父さんも当たり前の子育てしている。
- ・ 子育ての良い例をもっとアピールする。
- ・ 家事労働は軽減されているが、育児は軽減されていない。
- ・ 子どもはネックではなくサポートしていくもの。

(2) 職場への期待

① キャリア

- ・ 岐阜県は女性の管理職率が低い。
- ・ 女性も最初からキャリアを選べる社会になるといい。
- ・ 管理職への登用は、女性の目線から見て上手くいく職場から手をつけるといい。
- ・ キャリアという意味では、ボランティアなどの地域活動等、様々な経験も入っているのではないかな。
- ・ 女性の独身か若い人、もしくは親が近くにいる人だけが仕事などで活躍している。
- ・ 会社で活躍する女性が、独身ばかりというのはよくない。

② 離職

- ・ 子育て期の離職率が高い。
- ・ 会社を辞めなくてよい社会に転換しなければいけない。

③ 働き方

- ・ 男性も女性も、キャリアを望むか時間を取るか選択できるといい。
- ・ 男女に関係なく働き方が選択できるようにするべき。
- ・ 個人を尊重した働き方（女性が男性以上に働かないでいい社会）ができるよう、考え方を変えていく。
- ・ 女性と同様に男性もやりたい道へ進めるようにするべき。
- ・ 年齢、性別に関係なく働ける場所があるといい。
- ・ 総合職と事務職では女性は1：4で事務職を選択する。管理職になりたくない人もいる。

④ 意識

- ・ 優秀な女性も多く、男女の違いを認識してお互いを尊重していければいい。
- ・ 第2・3子の時でも、男性が育休を取得することが職場内で当たり前になるといい。
- ・ 育休中の評価がなくても、その時間は大切で取り返すことはできない。
- ・ 2～3年育休を取った女性の方が仕事の評価は高い。
- ・ 女性に差別を感じさせてはいけない。
- ・ 男性の育休など、制度ができて意識が伴わないと使えない。
- ・ 男性が早く帰って子育てをすることに抵抗を感じている人が多い。
- ・ 就職先を決める時に女性だけが、結婚・出産の条件を考えなければならない。
- ・ 採用面接の時に、女性の7割が子育て体制について尋ねる。

⑤ 制度

- ・ 企業は、育児中の男女は早く帰れるように考えるべき。
- ・ 男性職員の育休取得を働きかける。
- ・ 一年間の育休でブランクがあっても、取り戻せるような体制をつくる。
- ・ 時間差でみんなが働くことのできる職場があるといい。
- ・ 能力主義で、いかに良い人材を集めるかが大切。
- ・ 男性の育休が取れていない。
- ・ 育休を男性が取ると人事考課に響き、出世に響く。
- ・ 就職面接で、子どもが病気の時に看られる人がいないと不採用になる。
- ・ 病児保育への支援や制度は、中小企業では難しい。

(3) 地域支援への期待

- ・ 地域を支えている女性の大きな力を感じる。
- ・ 地域で女性が活躍できる場がもっと増えるといい。
- ・ お母さんたちのつながりが大事。
- ・ 日ごろからの交流の積み重ねや近所づきあいを大切にすれば、地域ともつながることができる。
- ・ 多治見にも自分たちがつながるNPO活動等が増えている。

(4) 行政への期待

① 保育

- ・ シングルマザー・ファザーが増えているので、保育園は柔軟な対応が必要。
- ・ 男性保育士が少ないので、男性保育士をもっと入れてほしい。
- ・ 保育士の半分は男性にしてほしい。
- ・ 子どもが病気の時に看てもらえる病児保育があれば、女性は就職しやすくなる。
- ・ 「子育てしやすいまち」としてマスコミが取材に来るようになってほしい。

② まちづくり

- ・ 地元で働くことができるといい。
- ・ 多治見にしかない働き方、就職口、環境をつくり、全国から人が就職するようにする。
- ・ 二世帯住宅や二世帯アパートを市で造ってもらえるとよい。
- ・ もっと若い人が住みやすいまちになるといい。
- ・ 多治見には観光などでメインになるものがない。

(5) 「輝く女性」について（経験談、現在、今後）（重複あり）

- ・ 当たり前の子育てしているお父さんも多い。
- ・ 4～5年目の研修で一番になるような優秀な女性もいる。
- ・ 2～3年育休を取った女性の方が仕事の評価は高い。
- ・ 地域の行事を通して、地域を支えている女性の大きな力を感じる。
- ・ 多治見にも自分たちがつながるNPO活動等が増えている。（再）
- ・ エリート夫婦が二人で働きながら子育てをした例があった。
- ・ 男性ももっと家事をするべき。
- ・ 企業は、育児中の男女は早く帰れるように考えるべき。（再）

- ・ 男性保育士をもっと入れてほしい。(再)
- ・ 子どもが病気の時に看てもらえる病児保育があれば、女性は就職しやすくなる。(再)
- ・ 地元で働くことができるといい。
- ・ 多治見にしかない働き方、就職口、環境をつくり、全国から人が就職するようにする。
- ・ 二世帯住宅や二世帯アパートを市で造ってもらえるとよい。
- ・ もっと若い人が住みやすいまちになるといい。

(6) その他

- ・ 人生の目標を持って、一生を過ごすことのできる社会にしていくべき。
- ・ 人生を充実して全うできるように考えていくべき。
- ・ 今の大学生（の女性）は、学校等で男女の差別をされずに過ごしてきている。

4 次回開催日時について

日時：第3回 平成27年8月26日（水）午後3時～

場所：産業文化センター3階中会議室

5 その他